

生物多様性保全

国内外のグループ従業員の積極的な参画の下、ステークホルダーと連携し、生物多様性保全に資する活動を展開しています。

富士通フロンテックグループの生物多様性への取り組み

富士通グループは、マテリアリティ（必要不可欠な貢献分野）※である「地球環境問題の解決」の重点的な取り組み課題の一つに、自然共生（生物多様性の保全）を定め、様々な生物多様性保全活動を実施しています。

富士通フロンテックグループは、かねてより国内外において、グループ従業員の積極的な参画の下、NPO法人様や工業団地の他企業様などのステークホルダーと連携し、森林保全活動や植樹活動、自然保護団体様への寄付など生物多様性保全に資する活動を推進しています。

※地球環境問題の解決、デジタル社会の発展、ウェルビーイングの向上の3分野を定めました。

国内・海外における生物多様性保全活動

国内グループ会社の株式会社富士通フロンテックシステムズ（FJFS：群馬県前橋市）では群馬県および前橋市と「森林整備等の活動に関する協定書」を締結し、2008年度から継続して、FJFSの代表取締役社長も参加の下、森林づくり活動を赤城山麓の嶺公園で年2回実施しています。2022年1月には、長年の当取り組みが評価され、令和3年度 群馬県環境賞顕彰「環境功績賞」を受賞しています。

海外グループ会社のFDTPでは、豊かな生態系の維持に貢献するため毎年、同社が工場を置くラグナテクノパークの他企業様と協同でマングローブなどの植樹活動に取り組んでいます。



終了後の記念撮影 (FJFS)



植樹活動の様子 (FDTP)

これらの活動がSDGsに貢献する要素(例)

13 気候変動に具体的な対策を



樹木による二酸化炭素の吸収を促進。

15 陸の豊かさも守ろう



自然環境を回復または維持することで、生物多様性を保全。

化学物質管理および汚染予防

事業所で使用する化学物質を適切に管理するとともに、環境測定などを通じて汚染予防に努めています。

事業所における化学物質の管理

環境・人体に与える影響を最小限に抑えることなどを目的とし、事業所内で使用する化学物質の保管量・使用量などの管理を行っています。具体的には、事業所で使用する化学物質のSDS（安全データシート）の取得やリスクアセスメントを実施し、化学物質を使用する人員に悪影響を及ぼさないよう対応しています。

また、2023年4月および2024年4月に段階的に施行された「労働安全衛生法）新たな化学物質規制」に基づき、化学物質を使用する各事業所に化学物質管理者と保護具着用管理責任者をそれぞれ選任するなど、社内における化学物質管理を強化しています。

汚染予防

当社では、環境汚染の予防対策として地下水、排水、騒音・振動の定期自主測定を行い、必要に応じて改善策などを講じています。以下は、2023年度の主な結果になります。

2023年度の結果（抜粋）

単位：mg/l

検出項目	該当拠点	法基準値	検出結果	備考
砒素及びその化合物	新潟工場	0.01	基準値未満 ~0.026	砒素は過去から使用実績がなく、自然由来と判断。

【その他測定項目および他拠点の結果】

本社・東京工場および熊谷SSC含め、法基準値、自主基準値ともに超過はありませんでした。
 (詳細： <https://www.fujitsu.com/jp/group/frontech/about/sustainability/environment/data/#pollution>)



騒音自主測定



地下水の採水